



WEEKLY REPORT

Rotary 東京立川ロータリークラブ 2019.10.11 第2858回 例会

2019～2020年度 RIテーマ



2019～2020年度
国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・
マローニー

ロータリーは
世界をつなぐ

2019～2020年度 クラブテーマ

Restart!

創立60周年 第2ステージの始まり
2019-2020

東京立川ロータリークラブ
会長 長井 守



卓話講師の江黒孝夫 様と一緒に

【会長挨拶】 長井 守 会長

10月6日(日)から7日(月)にかけて東京立川ロータリークラブ創立60周年記念登山に行きまして。環境保全委員会並びに山歩会の皆様、又お忙しい中参加頂いたメンバーの皆様へ感謝申し上げます。

本日は、その登山での出来事を掻い摘んでお話させていただきます。それは、当日出発する車中から始まりました。某先輩はその日も靴を脱ぎあぐらをかき、いつものルーティンを決めていました。これだけで勤の良い方はどなたかお察し頂けたのではないのでしょうか。その先輩は隣の人の足元を見るや否や、登山用の靴を忘れた事に気づき、急遽先輩の自宅経由で宿泊先であるホテル千畳敷に向かいました。千畳敷は駒ヶ岳ロープウェイの終点で、標高2612m、その地に佇む日本で一番空に近いホテルとして星空の絶景スポットにもなっています。明朝、私が登山の支度をして廊下に出ると、田中太さんと三浦哲さんが深夜見た満点の星の感動を山ガールの方達と共有していました。そこへ、初日に靴を忘れた先輩が浴衣姿でお手洗いに入っていく、数分後先輩の姿は片手に帯を握り締め、下着姿に変身していました。浴衣はどこに消えたのでしょうか。偶然そこに居合わせた田中さん、三浦さん、山ガールの方達は、先輩を目で追いながら呆然と立ち尽くし、何とも言えぬ不思議な空気感に包まれたようです。恐らく宇宙人に遭遇するところなりアクションになるのでしょうか。いつもながらゆるキャラのような先輩は、本当に私達の心を和ませてくれます。

それから間もなく、中央アルプスの名峰、100名山の1つである木曾駒ヶ岳を制覇するという目標を掲げ雨の中ホテルを出発しました。息切れが特に激しい清水直前会長と共に、マイペースを維持しながら、最大の難所を何とか乗り切りました。休憩後、次の目標である中岳を目指して歩き始めた所で、天候が一変し、雨と強風で体温の低下や滑落の危険が予想される事態となり、磯部リーダーの賢明な判断で、近くにある宝剣山荘に駆け込みました。とにかく冷え切った身体を温めようとダウンジャケットを着込み、食事を取り、体力の回復を待って下山し、ホテルに帰還しました。

フリークライミングの第一人者で偉大な冒険家ドット・スキナーの名言に「一歩を踏み出せるなら、もう一歩も踏み出せる」と言う、シンプルでありながら非常に奥深い名言があります。今回の登山では完全制覇とまでは至りませんでしたが、この言葉のように山頂を目指してひたすら歩く、とにかく前へ前へと歩く。ただそれだけの単純な動作を繰り返しているうちに、邪念のない自分がある事に気づきます。そして、ふと山から見下ろす景色を眺めていると、現実逃避したような不思議な感覚が生まれます。非日常の体験は、理屈ではない何かを与えてくれるようです。何はともあれ「山男」になるにはだいぶ時間がかかりそうですが、ロータリーの皆様と様々な企画に参加させて頂きながら、親睦を深めて参りたいと思っています。



長井 守 会長

【お客様の紹介】 長井 守 会長

江黒孝夫 様

((株)クルーズクラブ東京 代表取締役社長)

中山廣志 様

(東京立川こぶしRC)



司会進行
志村和則 委員



ニコニコ発表
杉森 創 委員



出席率の発表
岡崎 淳 副委員長

【司会進行】

SAA委員会 志村和則 委員

【開会点鐘】 長井 守 会長

【ロータリーソング斉唱】

『奉仕の理想』

【お客様の紹介】 長井 守 会長

【会長挨拶】 長井 守 会長

【幹事報告】 中山賢一 幹事

【ニコニコ発表】

親睦委員会 杉森 創 委員

【出席率の発表】

出席委員会 岡崎 淳 副委員長

10月11日(金)	会 員 数	122名
	出席 義務 会員	113名
	出席 免除 会員	9名
	当 日 出 席 者	101名
	出席免除会員の当日出席者	6名
	出 席 率	84.87%
9月27日の出席率		84.62% → 98.31%

【卓話】

(株)クルーズクラブ東京 代表取締役社長

江黒孝夫 様

【閉会点鐘】 長井 守 会長



例会会場:パレスホテル立川(立川市曙町2-40-15)

例会開催日:毎週金曜日 開会点鐘 12:30

会報担当者:栗原 卓

発行者:長井 守

事務局:立川市曙町2-34-6 小杉ビル8階

【TEL】 042-525-4046 【FAX】 042-529-2666

【HP】 <http://www.tachikawa-rc.org/>

【E-mail】 ttcr8082@sepia.ocn.ne.jp



例会時には必ずバッジをつけましょう

【幹事報告】 中山賢一 幹事

●10/6(日)7(月)で創立60周年記念登山中央アルプス名峰木曾駒ヶ岳に20名で参加。山歩会の小野さん、磯部さん、また環境美化運動も兼ねてごみ拾いを実施。環境保全委員会木村委員長、松島副委員長、参加して頂きました会員の皆様お疲れ様でした●10/10(木)プログラム委員会の炉辺、同日、青少年奉仕委員会の炉辺を開催●10/11(金)職業奉仕・社会奉仕委員会の合同炉辺を開催●10/14(月)第16回RYLAセミナー式典が国立オリンピック記念青少年総合センターで開催予定。会長、幹事・青少年奉仕委員会小松委員長と参加予定●台風15号の影響で各地に被害を特に受けた千葉県は未だに屋根の修理が出来ない地域が多くあり、松浦さん、小林寛さん、福本さんが現在の千葉へ5回支援に行っております。3名からの報告を受け、当クラブの第4回理事会議で人道支援積立金より1,000円×会員数122名=122,000円を拠出する事を可決承認し、第2790地区富津シティーRCへ支援



【ニコニコ発表】 親睦委員会 杉森 創 委員

- 東京立川こぶしRC 中山廣志様 今日はお世話に成ります。
- 長井 守 会長 (株)クルーズクラブ東京 代表取締役社長 江黒孝夫様、本日はお忙しい中おいで下さりありがとうございます。
- 中山賢一 幹事 創立60周年記念登山駒ヶ岳へ参加頂きました会員の皆様お疲れ様でした。本日の卓話講師江黒孝夫様、お話し楽しみにしております。宜しくお願い致します。
- 辺見哲郎さん 山歩会、ご利用誠にありがとうございました。グアムに続き、おてんと様の手配漏れ、次回は頑張ります。
- 齋藤 優さん 結婚記念月のお祝いを頂き感謝致します。
- 大竹茂明さん 過日の木曾駒ヶ岳登山では、小野さん、磯部さん始め、皆さんに、お世話になりました。山には登りませんでした。
- 益子悦雄さん 木曾駒ヶ岳では山歩会の皆様、環境保全委員会の皆様には大変お世話になりました。天気には恵まれませんでしたがとても楽しかったです。是非来春リベンジしましょう。
- 曾我部岩雄さん 結婚祝いありがとうございます。女房はますます元気で過ごしております。
- 田中 太さん 先日の山歩会では、大変お世話になりました。途中で下山したのは残念でしたが、楽しい登山となりました。
- 岡部直士さん 長男“栄一”が日本青年会議所の専務理事(次年度)に本日、富山で開催されている総会で承認されました。一昨年副会頭、そして次年度とお世話に成ります。
- 伊藤平八朗さん 先週月初での各種お祝いのニコニコ発表スピーディーな報告岡山さん御苦労様でした。
- 榎戸岩雄さん 昨日、見事な快挙を成し遂げたドクター木村政人さんおめでとうございます。
- 岡山 昭さん 先日の山登り、天候に恵まれませんでしたが、初めての本格的な山登りで楽しい経験が出来ました。ありがとうございました。
- 栗原 卓さん 先週は結婚記念月のお祝いありがとうございました。すっかり忘れていたので大変助かりました。
- 鈴木 寛さん 結婚記念のお祝いを頂き有難うございました。
- プログラム委員会一同 江黒孝夫様、本日は、遠路はるばるお越し頂きありがとうございます。本日の卓話宜しく願います。
- 大高 均さん 木村政人Drのおにぎり会優勝を祝して!!メリーゴーランドからの脱皮、おめでとうございます。

本日合計 50,000円 本年度累計 1,137,000円

【卓話講師紹介】

プログラム委員会 具島健太郎 委員

江黒様は1983年に日本郵船に入社され経理、企画部門を経て、定期航路の配船調整・船隊整備、穀物・原油輸送等に従事され、同時に郵船労働組合の委員長の役割にも就いていたそうです。その後、1998年にメルボルン駐在員としてオーストラリアに配属、帰国後はIT戦略グループ、広報グループを担当した後、2016年4月より現職にお就きになられています。江黒様とは昨年、弊社の創立100周年記念のイベントとして「レディクリスタル」という船を貸し切り、ディナークルーズを開催した際にご挨拶させて頂いた事がきっかけで知り合いました。本日は東京近郊のクルーズ船の歴史等についてご講話頂きたいと思っております。それでは江黒様宜しくお願い致します。



卓話「東京湾の貴婦人で皆様をお待ちしております」
江黒孝夫 様

(株)クルーズクラブ東京 代表取締役社長



日本郵船という会社は三菱グループの岩崎彌太郎が最初に創った海運会社です。三菱のスリーダイヤは山内家の家紋の三ツ柏、岩崎家の家紋の三階菱が元になっています。日本郵船は岩崎彌太郎の郵便汽船三菱と、反三菱派が支援する政府保護の共同運輸の2社が1885年に政府主導の元に合併し誕生しました。その時にできた2社合同を表す「二引の旗章」は現在も日本郵船で使われています。明治時代になると機軸産業として紡績産業が始まり、主にインドからの綿花の輸入で発展していきました。



岩崎彌太郎



「二引の旗章」

第二次世界大戦では日本郵船の貨物船、客船が軍事に徴用されました。終戦を迎え戦禍によって喪失した船は185隻、残った船は37隻で、5,000名を超える仲間の船乗りが戦没しました。このときに日本郵船は客船事業を続けていくことが困難になり、もう一度基礎の貨物事業の立ち上げを図るという時代になりました。それまで貨客船が主たる事業でしたが、太平洋航路の「浅間丸」にはヘレンケラー、山下公園に繋留されている「氷川丸」にはチャップリン、それから「北野丸」・「榛名丸」にはインシュタインが乗船され、当時の太平洋を中心とした客船事業に華を添えました。「ドライカレー」というものの横に初めて福神漬けをつけたのは当時

の日本郵船の料理長でした。また当時西洋料理という、帝国ホテル系か日本郵船系に分かれる程、西洋料理に関しては先んじて進んでいた、という話を聞いています。「氷川丸」は戦時中海軍特別病院船として出航しており、終戦までに3度機雷に接触するも奇跡的に沈没を免れました。この「氷川丸」は戦後の日本で建造され現存している唯一の貨客船として2016年に国の重要文化財に指定されていますが、保存のための多額のメンテナンス費用と安全な改装方法が大きな課題となっています。そういった華々しく悲しい歴史を超え、戦後の諸先輩方が日本の高度経済成長に携わり尽力されて今日我々がここにいます。



氷川丸

海運業では日本の産業の成長と共に色々な物資を運ぶ中で、専用で物資を運ぶための様々な専用船が造り出され、石炭、原油、LPG(液化石油ガス)、チップ、重量物、鉱石等々、色々な物の積み効率・輸送効率が考えられた専用船が順次投入されていきました。日本郵船初の自動車専用船は1970年に造られた「神通丸」ですが、現在の自動車専用船は大きいもので、カローラタイプの自動車を一度に7,500台輸送出来ます。日本初のコンテナ船の「箱根丸」(1986年)は約750個のコンテナを一度に運ぶことが出来ました。現在は1つの船で約20,000個のコンテナを運ぶことが出来ます。

その後1985年にニューヨークのホテルで行われた5カ国の通商会議で通貨の安定に関する合意(プラザ合意)がされました。そこで1ドル=235円が1ドル=約150円になり、会社の業績に大きな打撃を与えました。当時世界の海運会社の運賃はほぼドル建てで、運賃を1ドル頂くと235円頂いていたのが1ドルで150円しか頂けないという厳しい状況になりました。会社がプラザ合意後の貿易為替による損失打撃を受ける中で、14代社長の宮岡はその状況を打開するため、客船を造ることを思いつきました。通常なら貨物事業でコスト削減等の策を考えますが、「これからは客船の時代だ。」という事で海運業の華である豪華客船を造ろうと提案しました。しかし客船事業から手を引いて何年も経っていたため、お客様への接客や料理といった華々しい豪華客船のノウハウが社内にはありませんでした。プラザ合意を乗り切った収益をどうするのか、という声も役員ほぼ全員から挙がっていたそうです。それでも宮岡は「これから(戦後)必ず多くの人クルーズを楽しむ時代が来る。」と説得し、日本郵船は1989年客船事業の再開を宣言しました。

日本郵船の客船事業は「松」「竹」「梅」そして「小梅」という4つのプロジェクトでスタートしました。

「松」では米国を中心としたクリスタルクルーズを米国に立上げました。「竹」では日本の国内向けのマーケットで郵船クルーズが運行している飛鳥クルーズ、「梅」のフロンティアスピリットという船は、アマゾンや南極といった極地を探検しようという冒険船です。そして私が所属しています「小梅」はクリスタルヨットクラブという会社(現:クルーズクラブ東京)が運営する東京湾でのレストランクルーズ事業です。



FRONTIER SPIRIT

これら4つが客船事業に挑戦しようというプロジェクトです。現在残っているプロジェクトは「竹」の飛鳥クルーズ、「小梅」のクリスタルヨットクラブです。「松」のクリスタルクルーズはアメリカのクルーズ事業の雑誌で20年以上連続5つ星を獲得していた船でしたが、昨今の日本郵船の収支を考えると米国で事業をしていくには厳しく、2015年に香港のゲンティン香港に売却しました。その結果、「小梅」である私どもが「クリスタル」という称号が使えなくなり、翌2016年クリスタルヨットクラブを改め、クルーズクラブ東京という名前に変わりました。

飛鳥誕生の秘話ですが、当事社長の宮岡は戦前の「郵船」のイメージがあり、変な物を造ったらオールドファンが泣くので、みっともないものは造れないと言いました。太平洋戦争時に「樫原丸」という28,000トンの客船を造りましたが、軍部にすぐに徴用され空母に改装、客船としてデビュー出来ずそのまま沈没してしまいました。この事から、どうせ建造するなら樫原丸と同じトン数にしようという事になりました。飛鳥も就航当時はお客様が30数名という事もあり、航海中のイベントを催すたびに、乗組員数よりも圧倒的に少ないお客様を船内で探さなければならず、大変苦労していたようです。しかし現在では客足も増え、豪華ゲストを招くクルーズは最大の魅力となっており、例として横綱白鵬ら現役力士を招いた大相撲クルーズや、歌舞伎役者をゲストに迎えた歌舞伎クルーズ等があります。また余談ですが、世界一周のクルーズが始まった当初は、1/4のお客様が初めてで、平均年齢は67.5歳でした。また飛鳥の企画として、バチカン市国のシスティーナ礼拝堂を貸切りにするイベントも行ない、通常現地では数時間の待ち時間を必要とする所、大変喜ばれました。当事の社長である宮岡は「なにはどうあれ、絶対にお客様に楽しんで頂く事。これが挑戦だ!」と言いました。これこそが私達日本郵船のDNAであります。お客様に楽しんで頂く、お客様に尽くす、やるからには徹底的にという事が今の我々にも脈々と受け継がれております。

そしていよいよクルーズクラブ東京へと繋がるのですが、当時「これからは、船での旅が人の心を

潤す」という考え方を、何も遠い外国でなく東京湾でも感じてもらえる新しい余暇の場所・時間として提供しようと、社内の若手が中心となり検討し、プロジェクトを立ち上げ事業を提案しました。そしてクルーズクラブ東京の前身である「クリスタルヨットクラブ」が誕生しました。現在就航しているレディクリスタルは、竹芝桟橋・日の出桟橋から出ています。シンフォニーやヴァンテアンの定員が400～600名とかなり大型であるのに対して、全長が約46m、定員も着席100名前後とかなり小ぢんまりとしており、その分貸切り感を感じて頂けると思います。利用方法として、カップルでのデートや記念日・プロポーズでの利用（現在週3組ほどの予約）、また仲間での催しとして女子会やコンペ表彰式、また友人等のお祝い等で利用、更に大きなイベントとしての壮行会、発表会等々にも利用頂いています。そして先程は全長を46mと申し上げましたが、現在弊社で最大の船は飛鳥IIの241m、世界最大は「シンフォニー オブ ザ シーズ」の362mとなっ



飛鳥II

ています。ゴルフで言うと400ヤードミドルホール並みです。そして当社は、ハブル最後に滑り込んだ平成元年の事業会社です。平成期の半分は経常段階では赤字続きでした。しかし、2004年くらいから少しずつ黒字決算の年も出てくるようになりました。現在東京湾では、同様のサービスを同時期から提供している会社が2社あり、1つははとバス系、もう1つは離島航路を運営されている海運系の会社です。両社とも大人数が乗船できるレストラン船なのに対し、私どものレディクリスタルは80名ほどの着席でフルコースを召し上げて頂くクルーズシップです。そして2020年オリンピック東京大会を来年に控え、インパウンドエコノミーへの取り組みが叫ばれている訳ですが、東京湾では竹芝桟橋（ヴァンテアン）、日の出埠頭（シンフォニー）の2社に弊社を加え、さらに多くの屋形船、パーティークルーズ船、観光遊覧船などが東京湾で事業を展開しており、その数は正確には把握されておりません。現在は更に小型のクルーザーをチャーターして、ケータリングなどでクルーズを楽しむ人も増え始めております。公開されている情報では、東海汽船のグループ会社であるヴァンテアンクルーズは、年間10億円規模の売上げながら、ここ3年で毎年3千万円ずつ減収となっている等、とても厳しい環境にあります。

最後に、お客様は「期待」という少し空気の入った風船をお持ちだと思っています。彼女と、彼氏と、大切なお友達と、ご家族と、素敵な時間をお過ごしになるためにご予約を頂く訳ですから、お店を出られる時には一層大きな風船にしてお持ち帰り頂きたいと思っています。社長に就任した時に

スタッフに伝えた言葉ですが、「我々の提供するものが、人が生活をする上で必要なものかどうか？」不要ならすぐ撤退すればよい。しかし笑顔や非日常の体験を感じて頂ける、生活に潤いをご提供できるとしたら、こんな幸せな仕事はない。またクルーズクラブ東京に行ってみよう！と思って頂ける場所をみんなと創っていきたい」と社員には申し上げました。ロータリークラブ様にも4つのテストがあるとお聞きしており、その4番目に「みんなのためになるかどうか」とあるそうですが、会社で働く事が、自分が動く事が、会社・社会そしてお客様のお役に立てるのか、日々の場面で大切な事だと思えます。今話題の渋沢栄一の言葉にも「できるだけ多くの人に、できるだけ多くの幸福を与えるように行動するのが、我々の義務である。」とあります。これからもお見えになる全てのお客様に、大きな風船をお持ち帰り頂ける様努力します。本日のご縁を大切に、いつの日かお目に掛かれる機会を楽しみにしております。その時は一番大きな風船をお持ち帰り頂ける様にスタッフ全員で対応させていただきます。

【本年度も100,000円をバギオ基金に】

比国育英会バギオ基金から感謝状を贈呈されました



バギオ基金の目的と事業内容

基金事業の目的

本会は、フィリピンにおける日系及び一般青少年のために、育英資金を提供しその勉学を援助、日本への留学を支援すると共に、併せて日比両国の親善友好を増進することを目的とする。

基金事業の内容

- 1) 育英資金の原資を確保するために、本会設立の趣旨に賛同する後援者等の増強を図り、寄付金の募集に努める。
- 2) 寄付金の保全及びその運用によって、育英資金の増大を図る。
- 3) 育英事業と日本への留学を援助するためフィリピン側との連絡を密にし、その適切な実施に努める。
- 4) 日比両国の親善友好を増進するため、必要な各種活動を行う。
- 5) 前各号に付帯する必要な事業。

(一般財団法人 比国育英会バギオ基金HPより抜粋)